68 期生

３年生学年だより

豊中市立第五中学校　2021 年 12 月 10 日(金)　No.27

男女共生教育　～15 歳の命に贈る　未来のための誕生学～

８日（水）３・４限に誕生学協会の澤田貴美子さんをお招きし、いのちと性についてのお話を聴きました。感想を一部紹介します。

澤田さんのお話を聴いて、やっぱり命は大切にしなければいけないと改めて感じました。これから自分たちも成長していくなかでも、しっかりと自分を持って、自分を大切にして生きていこうと思った。望まない命などは絶対にないように、ちゃんと生きていく中で、その場その場で考えようと思った。命をつなぐための大事な話なので、聴くことができてよかったと思います。

今回の話を聴くまでは、赤ちゃんを産むことが嫌だなーって思っていました。けれど、動画にあった赤ちゃんが産まれてきた瞬間のみんなの表情を見て、産むことはただ痛いだけじゃないことを改めて知りました。中学校を卒業して、大人に近づく段階でいろんなことがあると思うけど、今日教えていただいたことを大切にしながら生活していこうと思います。

１年生の頃には理解できなかった内容や忘れかけていたことを再確認できて、本当によかったです。いろいろな男性や女性のあり方、生き方があってそれも一つの個性だということが改めて分かり、みんなが自由な生き方ができる世界にいつかなればいいなと思いました。そして、新しい命については、自分も３億個の中の２つから生まれた一つの命で、自分が生まれたことも、他のみんなが生まれたことも、本当の奇跡でもっと自分のことを大事にしようと思いました。

最初は 0.1mmから始まった自分たちが、15 歳まで生きてこられたことがすごいことだと思いました。これから大人になっていく上で、とても大切なことを学んだと思います。自分で自分を守っていくためにも、自分で命の誕生について調べ、知識をつけていくことをした方がよいと思いました。大人になる前にこのお話を聴くことができてよ

かったと思います。

性別が男女だから、こうしないといけないなど、性別で判断してはいけないなと思った。かけがえのない小さな命を大切にしないといけないと改めて思ったし、小さな命だけではなく、自分の命、人の命も尊重し、大切にしていかないといけないと思った。また、自分が 15 年間、ここまで生きてこられたのは、産まれてから今まで、たくさんの人の支えがあったからこそ、今の自分があると思い、周りの人に感謝の気持ちを忘れてはいけないと思った。

普段なら見ることの少ない出産シーンを見て、「怖い」と思ってしまった。男性は体験することのないことだから、いざ目の前で見てしまったら、動けなくなってしまいそうで不安な気持ちになった。また、一つの命が誕生するために、すごく大きなリスクや痛みをともなうことを知って、命の重みを感じた。

今回の話を聴いて、一つひとつの命は、誰かの一人の女性が痛めながら頑張ってるのにも関わらず、ニュースなどでよくある、無差別事件や殺人などで、された側の親、やった側の親はとても悲しいだろうなと思った。この先、自分が経験するかはわからないけど、もしそうなることになったら、いろいろなことを考えて行動します。

１年生の時にお話を聴いたということは覚えていたけれど、内容は忘れていたことも多かったので、復習できてよかったです。出産のドキュメンタリーを見て、妊娠をしたくてもできない人もいて、妊娠のために５年も頑張っている人がいるということ、出産で味わった痛みは、絶対にとても痛いと思うけど、それよりも命をあずかれたことの喜びの方が大きいということは驚いたし、すごいと思いました。

自分の命は素晴らしいと実感できたし、周りにとても守られて今があるということを知った。また、命の誕生を左右するような力があると知り、自分の行動に責任を持とうと思った。そして、動画の人たちの話を聴き、「生」というものがいかに尊く、素晴らしいのかを実感した。